

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士前期課程
授業名	機能調節薬理学特論			
開講キャンパス	紀三井寺	教室	基礎教育棟 3 階講義室 2 中講義室 3 0 4	
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	薬物生体間相互作用、薬物併用、受容体			
担当教員 （下線：科目責任者）	医	講師 納富拓也、 <u>教授 西谷友重</u> 、講師 陳 以珊		
	薬			
授業の概要	医科学研究・薬科学研究の双方において重要な薬理学に関する専門的知識、特に薬理学の概論、薬物の作用点・受容体、薬物の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）、薬物相互作用について解説する。			
到達目標	□薬が身体に及ぼす作用、身体が薬に及ぼす作用について修得し、薬が効く仕組みを理解する。 □医学研究を推進する上で必要となる薬物相互作用と薬害発生機序を理解する。 □薬物の作用点の分類及び標的分子の構造基盤などの知識を修得する。			
授業計画	1. 薬物相互作用Ⅰ（納富拓也／1回）【6/19 6限】 2. 薬物相互作用Ⅱ・薬害（納富拓也／1回）【6/19 7限】 薬物と薬物、薬物と食物などとの相互作用について解説する。 3. 薬理学入門Ⅰ（西谷友重／1回）【6/26 6限】 4. 薬理学入門Ⅱ（西谷友重／1回）【6/26 7限】 薬理学の概論について解説する。 5. 6. 薬物の吸収・分布・代謝・排泄（西谷友重／2回）【7/3 6限・7限】 薬物の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）について解説する。 7. 薬物の作用点・受容体(1)（陳 以珊／1回）【7/10 6限】 8. 薬物の作用点・受容体(2)（陳 以珊／1回）【7/10 7限】 薬物の作用点・受容体について解説する。			
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。			
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。			
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。			
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。			
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。			
教科書・参考書	【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】特に指定しない。			